

パソコンでプレゼン

須磨学園中生徒ら成果を披露

パソコン教育を推進している私立須磨学園中学校（神戸市須磨区、百四十八人）は十九日、同一年の生徒によるパソコンを使ったプレゼンテーション発表を行った。写真

真。同中学の文化祭のイベントの一環。今年四月に開校したばかりの同中学では、入学時からパソコン教育を推進。生徒全員がノートパソコンを所有し、生徒と保護者、教師が一体となったネットワークを確立している。生徒は授業で分かったことを気軽に教師にメールで質問するなど、パソコンを頻繁に活用。校内の関係者に限定されるチャットもあり、生徒は日ごろからパソコンに親しんでいる。

この日、生徒らはそれぞれのクラスに分かれ、

「平和学習」や「学校生活」などをテーマに発表。また、今日一日の長崎・佐世保の小六女児殺傷事件の発生直後、研修旅行のため長崎県を訪れたことから、「チャット」の功罪」をテーマに発表を行うグループも。訪れた保護者らはパワーポイントなどを使った生徒らの説明に耳を傾けていた。

